

特60

232

| | | | | | | | |
|------|-------|-------|-------|------|----|------|---|
| 里見義成 | 石龜屋次郎 | 犬江親兵衛 | 犬阪毛乃 | 十條尺郎 | 單節 | 大山 | 球 |
| 墓田基藤 | 里見伏姫 | 犬村大學 | 犬川莊助 | 乙音 | 濱路 | 梓 | |
| 妙珍 | 船切 | 一 | 扇ヶ谷定正 | 十條次郎 | 曳手 | 助 | |
| | | | | | | 犬塚番作 | |
| | | | | | | 犬塚信乃 | |
| | | | | | | 小文吾 | |
| | | | | | | 山林房八 | |

特60-232



1200500930196

明治新刻

繪本八犬傳

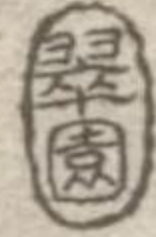
町田瀧司編輯

全

志に名有る人夫傳大の胤少く八賢士考く
 好く此格を拜を小祝ふ孝少く書法らぬ巧
 不巧を重ぬ方々古今未名方の物子少く強
 諺はる者も多し多し多し多し多し多し多し
 人乃勅をあらす其荒増を抜抄し子軽き小
 柳み本末元自作事とハ云ふあがらうわらう笑大あ
 るに世不黙以此人あるハ海く恥魚記りあしそ

明治十七年八月

合衆為主人記





山下定包



玉梓

定包ハ阿波の國主神
餘光弘臣アリ其性奸
智弁倭能王惑
其妾玉梓と通ト終
不計リ光弘之弒
一國家を押領セ
も天網のたれが金鞠
が為上亡されたり

番作の官領持氏
 仕へ忠勇の士あり結城
 落城のとれた其君父
 の首をとりて敵軍と
 きりあがりて村落に
 身をひそめしう後
 一子と説くこゝろ乃
 ち後に出る信乃あり



犬塚番作

金鞠八郎



金鞠八郎ハ神余光弘ガ
臣アリ主光弘女色ヲ溺
レ諫者ヲ愛スルヲ真愛
屢諫メテ用ヒラレ去ク
乞食トアリ後ニ里見
ヲ説ヒテ終ニ定包玉
梓ト討チテ古主ノ
讐ヲ報セシアリ





糠助



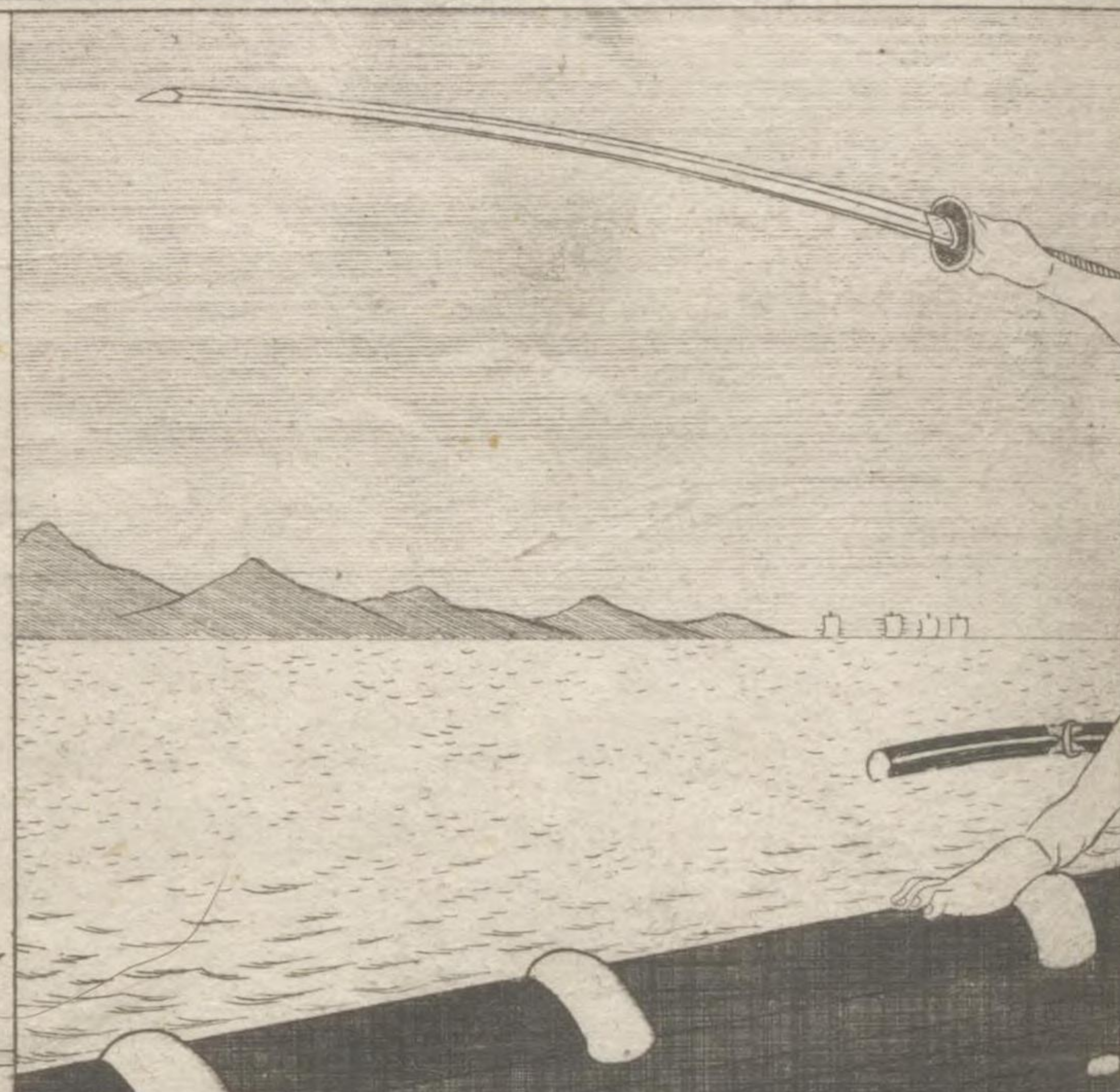
安房國洲寄村の産あり
農と漁とを以て業とせ
しが殺生禁断の所網と
て父は依て安房と追放せし
當時一人の男子あり女
吉といひしが後其犬飼
現と名称し其犬
士の一個とす

八洲傳

犬塚信乃



川田
火
堂



信乃の犬塚番作の子なり年三の頃父別れ養育せられ成長の後古我殿へ村兩丸と号し太刀を捧んとせしユいのまありいれ之らん夫が為外上家り終に芳流閣より現ハオと挑む戦ひあり

八洲傳

八洲傳

現八信乃と戦ひ組
 討して芳流閣より
 船中へ陥り利根川下
 に至り古名屋文五兵
 衛を救ふれ信乃と共
 兄弟の契約をな
 義勇の名を万世
 にとるるを

犬飼現八





山林房八

九



犬田小文吾

小文吾の旅店古那屋
 文五兵衛の子や七力強
 武藝と好ま加之相撲
 の技術は妙と得て浮め
 妹婿山林房八と角力と
 る一終に勝と取りしり両
 個睦しり義の為に争
 ひ房八を討しり

州州傳

州州堂

犬山道節



濱路

金田
榮
堂

道節ハ煉馬の臣ヤテ犬
士の個ニ父の仇ヲ報ゼン
火遁の術ヲ以テ軍用ヲ集
メ又志ヲ翻シテ單身讐
ヲ報ゼント再び越ル圓塚
山不図濱路ヲ逢ヒ村兩
丸の劔ヲ得ク後終ニ
志ヲ達セシト



金田
榮
堂



ひくえ

曳手八十條カ郎が
津家軍節の同苗
尺八郎が妻みへ
夫討死の後も能
その真標を守り
永の年月舅姑小
事々孝道を盡
してをくらざりしと



ひとよ

おとこしひ せうめい
 音へ道節が母あしが
 おとめきよと通じ主家
 残雪三世郎と通じ主家
 と去ると虫も其心石の如
 彼の煉馬落城の後道
 節と匿潜敵大軍と終
 寄せ来る物もせは
 世四郎と共にわけ向ひ
 寄手と悩は

おと
し
音



カニ郎尺兄弟共犬山道
作家臣ヤて忠勇並彼の
池袋の落城は主家の嫡道節
走り隠れ味方集る折犬塚
ホの危難と戸田川は救ひ討
死あゝ其魂母音々ガ
許は至り妻女ホよその
始終を告けーとを



十條力次郎



十條尺八郎



父ハ伊豆國北條の莊官にして
 衛士則任と云ふ曾て莊助年
 七才不慮のことよて父母別
 れ墓方の小丁となりて十二
 才の項信乃小遭ひ其後墓
 六龜笹ホが仇と打危難逢
 と重も義兄弟の助を得と
 里見の為よカと尺まといハ

犬川 壯助



扇ヶ谷定正



定正の扇ヶ谷の城あり智
 謀あり將あり煉馬攻撃の
 と此容易城と落しつら
 道節お其君父の仇と
 と以て身躬付給らんと
 虫も奇計と施してこれを
 防くされとも終つて大山が為
 と亡されありとを

父の相原胤度と云ふ誠
 道の士なりが馬加大記が
 為る無実の罪を得て自
 裁す其子毛乃舞妓は
 粉して大記は近き單
 身對牛樓上あてさんば
 仇を討ち小文吾が囚を
 助け孝義を全ふに



八代傳

十六

八代傳
 八代傳
 八代傳



犬坂毛乃

八代傳

八代傳
 八代傳
 八代傳

犬村大學ハ一角ガ子トシテ
其性孝順アリ五才ノとき
父ノ角ハ東申山ニテ妖猫ノ為
ニ横死シ其妖猫一角ノ客ト
ナリテ非義非道ノ挙動ヲ
以テ後數年ト經テ現ハガ
助けムヨリ始メ父ノ仇ヲ
討ツ知リテこれを討ツ

犬村大學





一 大い金鞠八郎が一子にして
 大助と云ふ其主君の使者と
 して安西に至りしを計り
 陥り主家と退り伏姫
 富山の奥に入云々と聞如
 何ぞとて救ふ奉んと思ひ
 八房と打さる餘り姐と打り
 より僧とあり面国と大主と集む

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十

十八

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十



一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十

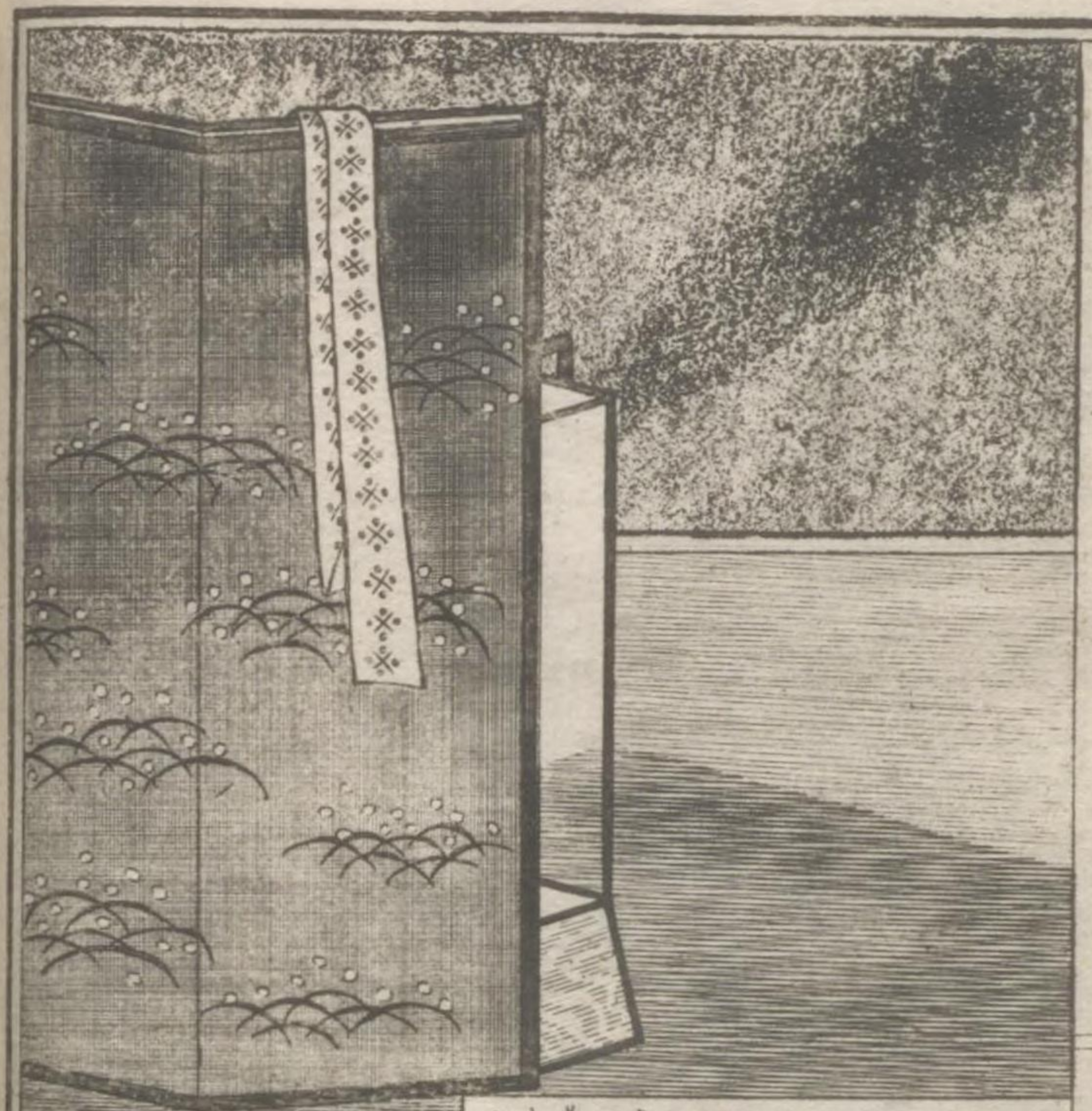
里見伏姫



犬江新兵衛山林房ハ
一子あり幼きと死父母別れ
妙真オト伴れて安房至
途上凶徒航九郎ガ為
危難ヲ遭一ガ伏姫ノ神
救ひとれ則ち神ノ教
よりて後ハ犬オト一個成
英名ト云らる



犬江新兵衛



船虫の鳴尻並四郎が妻は
く能く夫の凶悪を助
道路情を賣りて客入
の金錢と奪ひ後犬田と
惱み或は犬村猫一角が妻
とあり大角を苦め雛衣
と死地を陥る杯其好悪
毒婦の情恐るべし



船虫



石亀屋



犬田小文吾一之故郷へ歸
て安否を訪ひ再び故郷を
去りて異姓同胞を尋ね
越後路ゆく狭客石亀屋
が旅館み足を歩みし不
畫船を不出逢ひ大
ひみ恨懷をもちせ



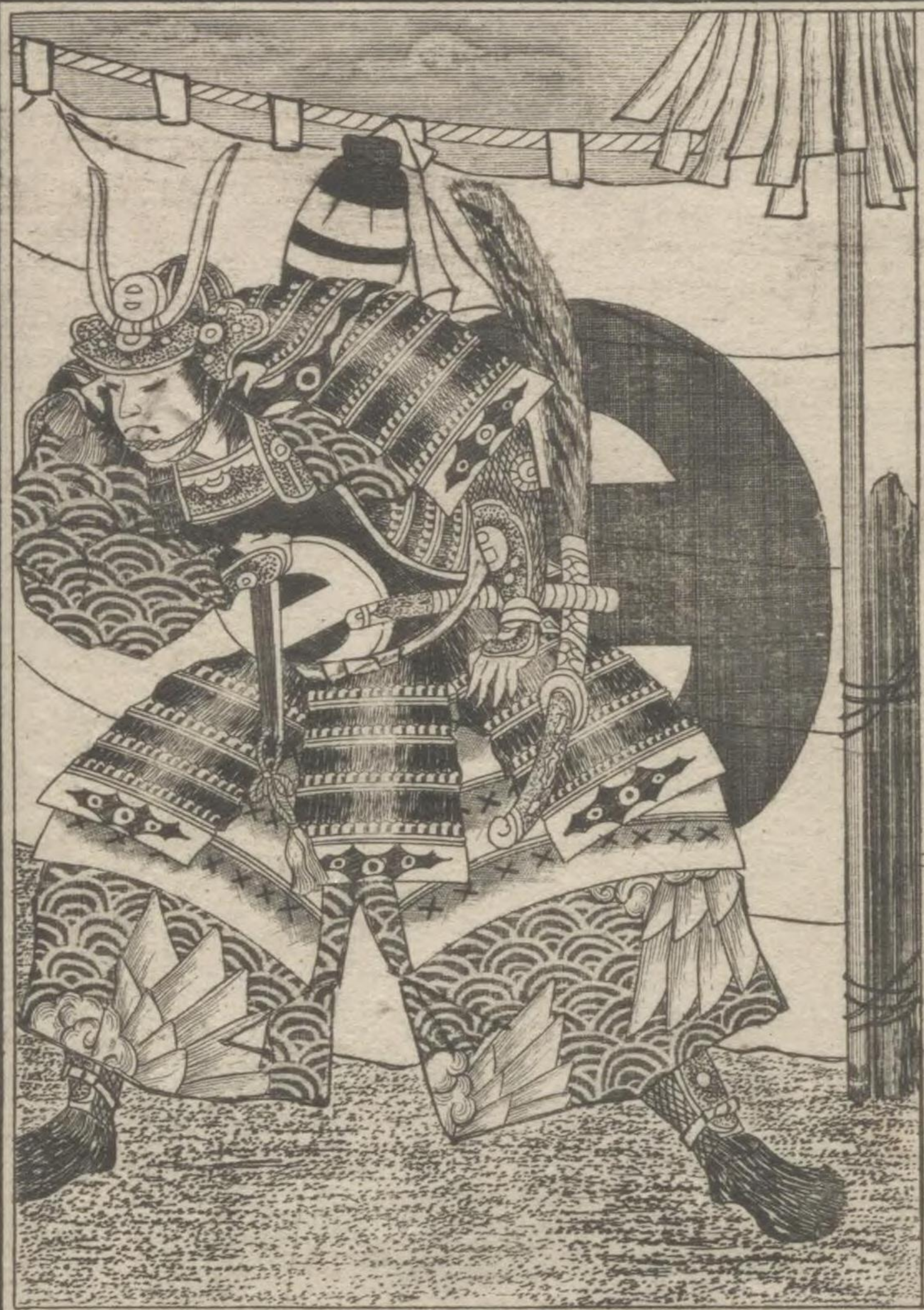


基藤



妙ちん

妙珍尼の彼の娼妾玉梓が
 怨念ある古狸はて里見へ
 仇とあさんと計り凶賊基
 トと勧めて里見と討と
 一めん手鳴呼毒婦の怨
 念冥斯のしく永く讐
 を醸ひ悪むべーま
 おそるべー



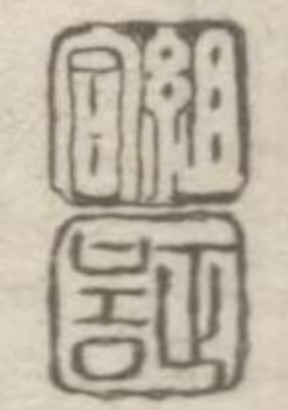
里見義成

義成里見義實の嫡子
 ありて性仁義を重んず智勇
 あり良将あり彼の犬士未だ相
 會せざる日此君不事へ能
 く忠節を尽しける嗚呼
 此君やて此良臣あり宜
 むるるを後世人の口碑を傳
 ふるところあり

八代傳

金榮堂

明治十七年八月三十日御届
同年九月出版



定價拾五錢

編輯人

町田瀧司



金榮堂

本河區表町三拾壹番地

出版人

牧野惣次郎



金幸堂

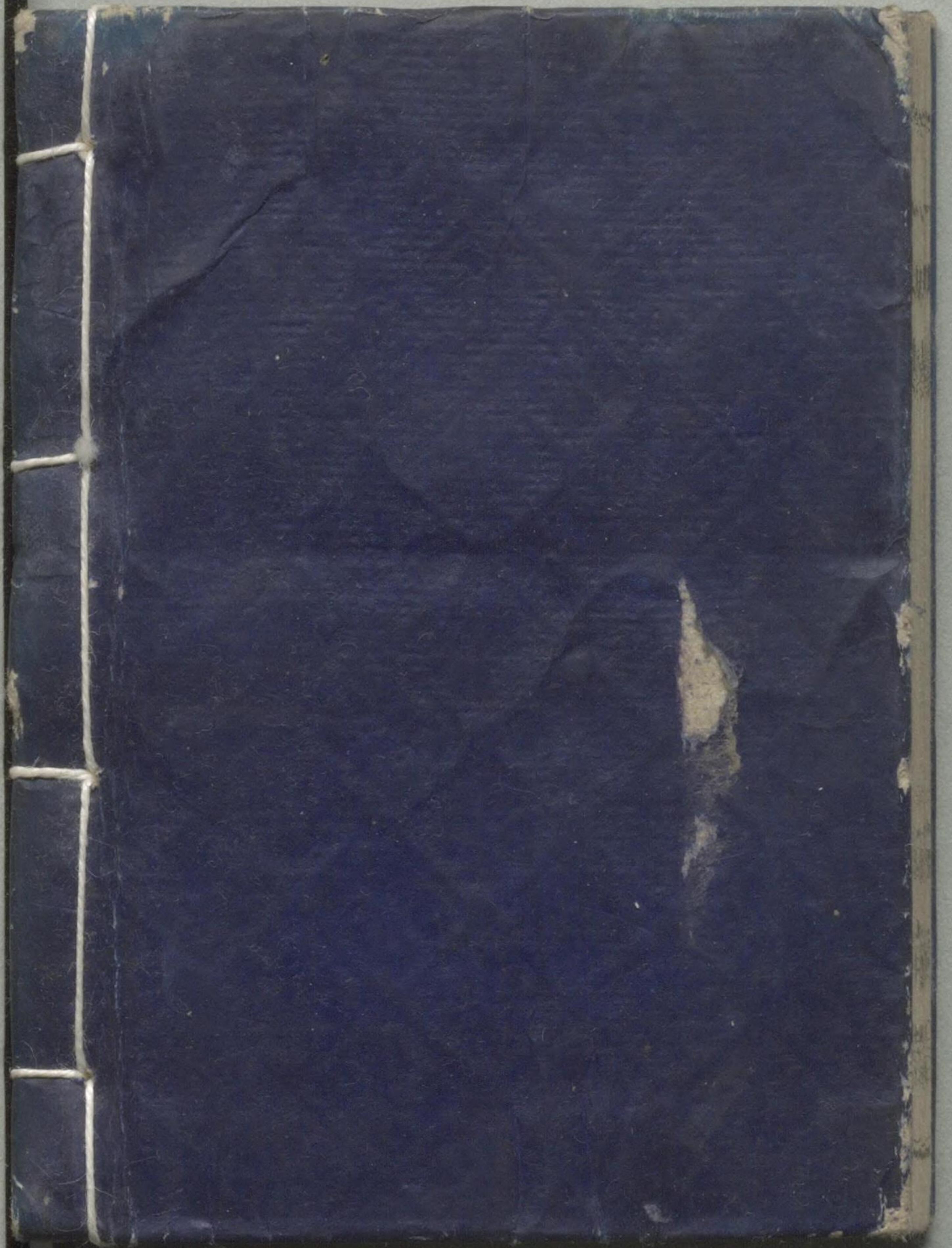
日本橋區橋町三町目十番地

發兌人

稻垣良助



全區米沢町三町目志番地

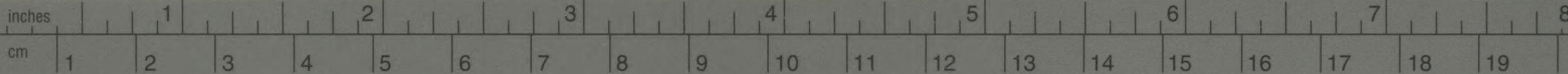


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

